



は18日、参院選勝利に向けて全県決起集会を開きました。

白川よつ子候補がビデオでいさつ。中谷浩一県委員長が幹部会決議と全国都道府県委員長・書記長会議を受けた県委員会からの報告をし、「県内で物価高騰の中で悲鳴が上がり、消費税減税が大きな関心事だ。特朗普関税をきっかけに『このままアメリカ言いなりでいいのか』との声がある。まさ

指摘しました。  
参院選挙の取り組みについては、「白川候補の地元として香川県党に特に大きな責任がある。大いに宣伝に打って出ながら、要求対話や支持拡大の大幅な遅れや党勢の後退を何としても克服、突破するために全党決起を作り出そう」と提起しました。

また、4月末の「平和を考えるつどい」について言及。「新しい人たちと共同する条件が見えており、支部でみんなが世代や若者との結びつきに光が当たり、宣伝、対話に踏み出す支部がうまれてきたことを次に

# 今こそ全党決起で 参院選挙勝利の流れを作 り出そう 全県決起集会



昭和48年5月29日第三種郵便物承認

間で協力しない流れも今の政治情勢では存在します。その他、市民と野党の共闘を崩したい、権力をひつくり返されたら困るので、「反共攻撃」や「市民と野党の共闘崩し」のネガティブキヤンペーンの攻撃もあります。「(に)にきちんと論陣を張り、デマや誹謗中傷差別主義的発言などに対しきちんと反論し、立場や考え、政策をリアルでもネット・SNSなどでも正面から訴えてい。国民的な運動の高まりと「市民と野党の共闘」の要（かなめ）となる日本共産党の躍進なしには、「市民と野党の共闘」の再構築や前進はありません。

**Q. 選挙戦はどうたかいますか？**

**A.** 自公政権と、政権を延命させる国民民主党や維新の会などの補完勢力と対峙して、真っ正面から改善策、対案としての日本共産党の鋭い政策を訴えていきます。声の宣伝・対話

■6月15日(日)■  
白川よう子候補を囲む3後援会のつどい

- ◎10：00～12：00 教職員後援会  
(場所:仏生山公園管理棟、白川よう子・藤森毅 党文教委員会監修)

◎13：00～14：30 女性の集い  
(場所:瓦町フラッグ8F、白川よう子)

◎15：00～17：00 農業のつどい  
(場所:JA木太支店、白川よう子・小松泰信 岡山大学名誉教授)

前回の最後でも触れましたが、連合国側が「大西洋憲章」その他で打ち出した戦争目標の中に「社会保障の重視」を明記した背景には、ロシア革命によって成立した社会主義国への対抗と言う側面ともに、労働者階級の歴史的な闘いと要求がありました。

第2次大戦後の1945年秋に結成された「世界労働組合連盟」（世界労連）は、その後の冷戦体制やソ連対立の中で複雑な組織的経過をたどりましたが、1953年に採択した「社会保障綱領」には、社会保障について次のような記述があります。

・ 真の社会保障は、自己の労働によって生活するすべての人間とその家族、並びに、一時的、もしくは恒久的に労働しえない者に対して法律が保障する基本的な社会的権利とみなされなければならない

- ・ 社会保障を受ける権利は人種、国籍、宗教、性、年齢もしくは職業のいかなる区別もなく、全ての者に適用されなければならない。

一般に社会保障は、被保険者からいかなる分担金を取ることもなく、國家、もしくは経営者、もしくは両者によつてまかなわれなければならない。

労働組合は、労働条件のみを闘争の課題とするのではなく、社会保障の充実にもその力を発揮しなければならないとしたこの綱領はその後の各国の労働組合運動に大きな影響を与え、日

本でも1958年に、労組や民主医療機関連合会（民医連）などが中心となつて「中央社会保障推進協議会」（社保協）が結成されました。その後、臨調行革路線・労働運動の右傾化・総評の解散（1989年）、県評・地区労の消滅などで困難を抱えた時期もあつましたが、全国労働組合総連合（全労連）その他の支援の下、引き続き、多様な民主団体や住民を巻き込む力たちで社会保障の充実と発展に向けた運動を展開しています。

なお、社保協は全都道府県に支部を有し、ここ香川でも、香川県労連・香川県保険医協会・医療生協・民医連・民商・年金者組合・きょうされん・新日本婦人の会・生活と健康を守る会など多様な団体の参加の下、宣伝・署名、自治体キャラバンや行政との懇談・交渉などが取り組まれています。

## 日本共産党が参議院香川選挙区で **長尾まさき氏を擁立**

産党の職員となり、現在は  
党の香川県委員としんぶん  
赤旗香川県記者です。

会見で長尾さんは今回の選挙について、「(今の)この政治を大もとから変えるには日本共産党的議席を最大限度に伸ばして市民と野党の共闘の政治勢力の再構築をして今の政治の勢力を押しやるか、ひっくり返すしかない」と力を込めました

参議院議員選挙香川選挙区には自民党・現職の三宅伸吾さん、国民民主党・新人の原田秀一さん、参政党・新人の小林直美さんが立候補を予定しています。

平和について訴え、「(今の)この政治を大もとから変えるには日本共産党的議席を最大限度に伸ばして市民と野党の共闘の政治勢力の再構築をして今の政治の勢力を押しやるか、ひっくり返すしかない」と力を込めました

参議院議員選挙香川選挙区には自民党・現職の三宅伸吾さん、国民民主党・新人の原田秀一さん、参政党・新人の小林直美さんが立候補を予定しています。

台湾で稼働している最後の原子力発電所が5月17日に停止し、「原発ゼロ」が実現した。今後、電力の安定供給に向けて、再生可能エネルギーへの転換を進めていく。福島第一原発の事故を受けて、「原発ゼロ」を公約に掲げた民進党政権が順次、運転を停止してきた。

一方、原発事故を起こした当事国である日本は、閣議決定された2025年のエネルギー基本計画が2月に発表されたが、原発への依存度を高める方向に動いている。温暖化対策はもちろん早急な課題であるが、今後30年以内で起ころる確率が80%の南海トラフ地震や70%の首都直下型地震に備えることを呼びかけながら老朽化した原発を稼働させ続けようというその矛盾。太陽光発電や地熱発電・小型水力発電などの再生可能エネルギーに通じた日本の国土を生かして安全なエネルギーへの転換が急がれる。(c)